

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (観光交流促進コース)		訪問国	カナダ	
学校名	静岡英和女学院高等学校	氏名	上野花帆	学年	2年

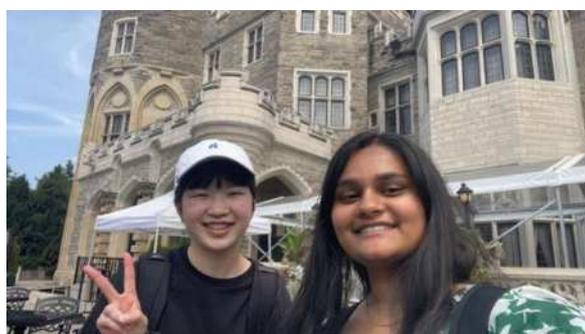
テーマ：カナダから学ぶオーバーツーリズム対策～静岡の未来を守るために～

留学前、私はオーバーツーリズム対策のみに焦点を当てて探究をするつもりでした。しかし、事前調査で静岡の観光の現状を調べていくうちに、静岡にはオーバーツーリズム以外にも観光事業において課題があるとわかりました。それは、オーバーツーリズムが起こっている地域と過疎化が起こっている地域が共存していることです。富士山周辺や伊豆の温泉地ではオーバーツーリズムが深刻化していますが、県の北西部や伊豆の南部などは過疎化が進んでしまっている状況です。このことを知り、私はオーバーツーリズムが起こっている地域に集中している観光客を過疎地などに分散させることで、オーバーツーリズム緩和と過疎地の活性化、この2つを両立できるのではないかと考えました。そのために、カナダのトロントに約1ヶ月間、ホームステイをしながら、現地の鉄道会社や観光局、国立都市公園のスタッフにインタビューをしたり、実際に観光名所を訪れたりしました。



まず、実際に観光名所を訪れて、トロントは観光名所が点在していると感じました。点在していると移動が大変なように思われますが、トロントはある方法で観光客の移動を促進していました。インタビューで、鉄道会社の方からバスや電車の運賃が距離に関わらず一律であることを知り、この仕組みがあることで観光客が離れた観光名所へも足を運びやすくなっていると思いました。静岡県はJRの線路が海側に寄っていて、山側（北側）とのアクセスが弱い、つまり東西（熱海～浜松）は移動しやすいけど、南北移動が弱いため、「点在する観光地を組み合わせで回る」という回遊が難しいです。そのため、トロントのこの運賃一律制度に加えてバスの本数を増やすなどして、南北の移動を活発化させる必要があると考えます。また、トロント観光局からは、AIによる観光ルート提案の導入についてお話を聞くことができました。人が多い場所だけに集中させない、“あえて空いているスポット”を提案することで観光客を分散でき、オーバーツーリズム解消+地域の活性化の両立が期待できそうです。静岡県にも、観光ルートを提案してくれるアプリがありますが知名度は低いため、SNSなどのツールを利用してそのアプ

りの存在を認知してもらう必要があります。これらの仕組みを静岡にも還元することで、オーバーツーリズムの緩和と過疎地の活性化を両方達成できるのではないかと考えます。



アンバサダー活動では、ホストマザーと一緒に華道をやりました。剣山は持って来れなかったため100円ショップで買ったオアシスで代用しました。私は、高校で華道部に所属しており、華道を紹介したことでホストマザーに私自身についてより知ってもらうことができ、会話も広がりました。ホストマザーもとても喜んでくださって、余ったオアシスをもってまた生けてみるとおっしゃっていました。自国の文化を海外の方に喜んでもらうと、改めて日本文化の魅力に気付かされます。今回の留学では、留学先のカナダの文化に魅了されただけでなく、自国の素晴らしさを再確認することができました。自国の文化に誇りを持つとともに、その評判に恥じぬ人になりたいと思いました。



この留学を通して、海外の事例から学ぶことの重要性と、自国の文化や地域を客観的に見つめ直す視点を身につけることができました。今後は、今回得た学びを静岡県の観光課題の解決に生かし、地域と世界をつなぐ架け橋となれるよう探究を続けていきたいです。